

古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。
2コリ5章17節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 中田 輝次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869
FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp



12月・教皇さまの意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：権力の賢明で責任ある行使
- ②宣教の意向：宣教者
- ③日本教会の意向：人間のための環境保護の推進

ペトロ岐部と187殉教者一般メディアも高い関心

来年長崎で実現する列福式に、メディアも高い関心を寄せている。11月12日の朝日新聞には、「殉教188人に福者の誉れ」というタイトルで記事が掲載された。「来年の列福式が一般信徒を多く取り上げ、信徒に力を与える出来事になる」という点が強調されていた。また11月10日のKTNスーパーニュースでは、トマス次兵衛神父にまつわる洞窟を訪ねて巡礼した一行に撮影スタッフが行き添って(写真「外海の隠れキリシタン・殉教者の足跡をたどる巡礼ツアー」として放送している。トマス次兵衛神父は、宣教師のために長崎に潜伏し、最後は西坂で殉教し



た。今回の188殉教者に連なっている司祭の一人である。日本のカトリック教会

の動きが少し遅い感じがするが、それでも慎重に列福式への準備は進められている。10月の全国教区広報担当者会議の中で聞いた話の中に、6月の定例司教総会に提出された「殉教を想い、列福を求める週間」を2007年2月に置くこととし、8日間の祈りの期間を設けることが含まれていた。中央協議会から近く正式に発表されることになっている。



長崎カトリック神学院の体験入学 神学院・志願院を交えての交流会

10月21日(土)・22日(日)、長崎カトリック神学院で1泊体験入学を行い、長崎・福岡・大分・鹿児島各教区から55人の中学生が参加。
1日目、長崎コレジオ・大浦天主堂を訪問し、夕食後にはレクリエーションのドッジボールで親睦を深めた。翌日はミサの後、神学生各学年代表が体験談を発表した。参加した子供から「入学したい」、「来年も参加したい」という声が聞かれた。彼らの中から多くの召命が芽生えてほしい。入学を希望する子供がいたら神学院へ一報を。(電話095-844-11096)



11月3日(金)・4日(土)、長崎カトリック神学院で、教区小神学生、修道会神学生・志願生の交流会が行われた。
参加したのは、長崎カトリック神学院24人、聖ルドヴィコ神学院8人、聖コルベ志願院6人、四日市サレジオ志願院19人、スタッフ11人。
初めての試みであったが、スポーツ交流、各神学院・志願院紹介、体験学習などを行い、同じキリストの働き手を目指す者同士、互いに大きな励みとなった。

教区委員長会議

10月31日午後2時から大司教館2階会議室において定例の委員長会議が開かれ、高見三司教、橋本勲本部長、事務局、11の委員会のうち9委員会から代表が出席し、議題に沿って会議が進められた。
まず各委員会からの今年度の活動内容が報告され、次に委員会の予算決算のあり方について確認し、最後に2期6年を経過しつつある教区諸委員会の評価および反省が持たれた。現在11の委員会に分かれているが、このまま進むのか再編の必要があるのかについても話し合われた。

「アジア宣教大会」へ参加して
井手 義美
10月18日から22日まで、タイのチェンマイで「第1回アジア宣教大会」が開かれ、全国から菊地功新瀉司教を団長として3人の司教、5人の司祭・修道者と11人の信徒、長崎教区から宮田隆氏(島原・雲仙教会)と私の2人が参加しました。
アジア各地と教皇庁から約30カ国、千人を超える多くの参加があり、「アジアにおいてイエスキリストをどのように伝えるか」をテーマに講演や発表、そして分かち合いが行われました。
各国ではその国に合った宣教の取り組みがなされており、その多様性に驚かされましたが、例え



分かち合いグループ (左端男性が井手義美氏)



会場風景

ば、タイでは仏教のシンボルである蓮(ハス)の花びらの中に十字架を埋め込んだ図案が作られたり、インドネシアでは大切に育てる農作物の米に主が宿るとの信仰が紹介されました。
移住信徒の問題も取り上げられ、マナス面の心ならず、移住国での熱心な信仰生活が周りに良い影響を及ぼすこともあるなど紹介されました。
主催国のタイは2年にわたる準備をしてきたとのこと、キリスト教が入ってきた歴史を紹介する舞台では数千人の子供たちも出演し、参加者に大きな感動を与えました。国際大会のため英語が共通言語として使われていたが、今後の国際大会受け入れを考えると、私



達もある程度の英語力習得が必要であると痛感させられました。
最後に、この大会参加で得られたものを今後の教区宣教活動に生かしていけるよう努めたいと思っています。

高見大司教は歓迎のあいさつの後、「日本のカトリック教会は日本人より外国人の信者が多い時代を迎え、多国籍と多文化により豊かになると同時に、さまざまな問題がある」と言及し、それに配慮と対応を惜しまない

11月3日と4日、日本カトリック難民移住移動者委員会主催による全国研修会がカトリックセンターで行われた。写真上、北は新潟から南は鹿児島まで約1000人の参加者があった。
委員長の大司教は、同委員会に敬意と謝意を表した。
委員長の谷 大二司教(写真上)は、さいたま教区は、生まれおちてすぐヘロデ王の迫害を逃れてエジプトに移住したイエスが、両親とともに体験した難民生活について話した。異国の地で生きる困難さと神への信頼を熱く語った司教の話は参加者の心を捉えた。続いて行われた5つの分科会では、「平和活動」「入管・収容所問題」「国際結婚・生活と仕事」「子どもの教育・信仰教育」のテーマで討論された。2日目のまとめを聞いて、どの分科会もまじめに話し合いがなされたことを知った。どの顔にも信仰の喜びと一体感があふれていた。



今回の研修会で特筆すべきは、地元の信徒総勢50人の活躍である。担当の川口清神父(大浦教会)は、「春から毎週ミーティングを重ねてこの日のために備えたスタッフ一同、参加者の子供たちを預かって相手をしてくれた中学生と青年たち、若い司祭たち、救護や案内を臨機応変にしてくれた皆さん、家族的雰囲気の中でミサの奉仕をして研修会を閉めてくれた一人ひとりに感謝したい」と語った。

黒瀬の辻殉教祭

11月12日(日) 午後2時から、黒瀬の辻殉教祭が行われた。時津教会(長崎北地区)の巡礼団をはじめ各地から約300人の信徒が集い、来年長崎での列福が予定されているガスパル西玄可の墓の傍らでミサをささげた。
中島誠志師(山田教会)司式によるミサの中で、地域の家族6人が洗礼の恵みにあずかったが、中島師は説教の中で次のように語った。
「私のこと好きでしたか?」自殺した子供の最期のメッセージです。孤独、頼るべき存在がいな



「洗礼のお恵みをいただき新たに神の家族に加えられる6人とガスパル西玄可の家族を重ね合わせながら、参列者は家族の大切さ、信仰に結ばれ、互いに支え合うことの大切さを心に刻んだ。」

家族の絆、同級生の絆、同僚の絆。しかし、ガスパル西とその家族は、その死を通して、神のことが家族の絆を固く結び、輝かせることを証してくださいます。
今ここにイエス様との新しい絆を望む6人の家族がいます。洗礼のお恵み

ぼしなび

今、クリスマスプレゼントに何が欲しいかと言われたら、私は迷わず「新しいミサ典礼書」を待ち望んでいる。長崎教区で奉仕する司祭だけではない。日本の多くの司祭も、「新しいミサ典礼書」を待ち望んでいる。中司祭の様子を描写してみよう。たとえば感謝の祭儀の間、祭壇にはミサ典礼書、聖書と典礼、場合によっては「毎日のミサ」という冊子とあわせて3種類の印刷物が所狭しと広げられている。祈願文を唱えるとき、いちばん大きくて場所を取る「ミサ典礼書」に公式の祈願文が載せられているが、実際にはあまり使用されていない。聖書と典礼にお試し期間中の祈願文がメインの祈願文として掲載されている関係上、祈願文は聖書と典礼を見ながら唱えている。行儀よくミサ典礼書の上に乗せて聖書と典礼の祈願文を唱えている司祭もいる。ミサ典礼書は分厚い数冊となっており、現代の日本の風土、文化に合った典礼書が一朝一夕に作成できないことは百も承知だが、通常の主日はまだ辛抱できるとしても、聖週間の典礼に入るとますます「何とか一冊にまとまらないものか」と思ってしまう。見切り発車でも典礼書を出版することはできないのだろうか。とんでもないとお叱りを受けそうだが、現場の司祭にとっては待つのも待っても喜びの日が遠い待降節である。

感動与えた「市民セナリヨ2006」 「長崎の宗教と文化」が終了



最終回のシンポジウムにて

が来る10月21日、最終回をもって終了した。

これは諸宗教の出会いと歴史に培われた長崎特有の精神文化の価値の直しを指し示して企画グループ「アジェンダNOVA」がさき(宮田隆代表、写真下)が長崎大司教区の協賛で「長崎さるく博」タイアップイベントとして開催したもの。

毎回のセナリヨの構成は午後7時から大浦天主堂で開催される講演会

を主軸とし、それに先立ち午後3時から夜の講演内容と関連する史料や資料を各講演担当の講師自身の案内と説明で見学する「ミニさるく」が行われ、さらに夜は講演の部に続くチャペルコンサートが行われ、講演テーマとかわる音楽空間の中で話の内容理解が深められるよう工夫された。

長崎のカトリック、神道、仏教各界の代表的な現役活躍中の聖職者が講師を務め、長崎におけるキリスト教の伝来に続くキリシタン禁教の歴史におけるそれぞれの宗教の立場や果たした役割、それに伴う宗教間の軋轢などが語られ、歴史の比較検証がなされた。

第1回は高見三明大司教が「ローマ教皇庁

と長崎」をテーマに最初の宣教師到来のいきさつから教皇ヨハネ・パウロ2世の来崎までの通史を、第2回はデ・ルカ・レンゾ日本26聖人記念館館長が「キリシタン世紀」のキリスト教発展、と題してキリスト教発展時代と26聖人の殉教までを、第3回は片岡千鶴子長崎純心大学学長が「殉教と潜伏」浦上四番崩れと近代日本の夜明け」のテーマで江戸時代から明治におよぶキリシタン弾圧と信仰自由の到来までを語った。

第4回は「禁教令と神社」と題して秀吉や徳川幕府によるキリシタン弾圧の論理、諏訪神社創建やおくんに見る祭礼振興の意図などにつき諏訪神社の大神照彦宮司が語り、第5回は「長崎の寺々、これからの長崎と宗教」と題して三浦達美浄土真宗本願寺派大光寺住職が過去に間接的とはいえキリシタン禁教の片棒を担った事実、キリシタン殉教の歴史から現代がくみ取るべきものは、など宗派を超えた視野に立って語った。

第6回は長崎の「歴史に見る文化交流」と題してブライアン・パークガフ二長崎総合科学大学教授が国際貿易の歴史の中で生まれた異文化共存という長崎の特色を東西文化交流の視点から高く評価した。

最終回の第7回は「これからの日本と世界における長崎の役割」をテーマに長崎学の権威、越中哲也氏(長崎文化歴史協会理事長)による発題講演をもとにこれまでの講師陣の中から、大神照彦宮司、三浦達美住職に再登壇を願い、野下千年神父(長崎県宗教者懇話会会長・アジェンダNOVA)がさき企画部長をコーディネーターとしてシンポジウムが開かれた。越中氏が提言した「和こそ長崎の心、円満は長崎の土地柄」をめぐる会場からも多数の発言があった。特に核廃絶高校生一万人署名運動に携わる若者たちからの平和運動への力強い支援の訴え(写真下)が会場の感動を呼ぶ中で、市民セナリヨ2006は終了した。



上五島地区でスポーツ親睦会

10月15日(日)
上五島地区連合婦人会第18回親睦ミナレ大会が行われた。地区11小教区から16チームが2バートに分かれ、熱戦が繰り広げられた。会場にはたくさんのお客さんが詰めかけ、点数が決まるたびに大きな声援が飛んだ。優勝は真手ノ浦、準優勝は仲知。



子どもも登場し、会場を沸かせた。試合は4バート各4チームに分かれて行われた。閉会式では、川上忠秋師(曾根)が、「上五島地区をこれから大いに盛り上げていくんだ」とあいさつした。優勝は青砂ヶ浦(写真手前)、準優勝は丸尾(写真奥)。

国宝大浦天主堂を主会場として4月から10月までの7カ月間毎週第3土曜日の午後、7回にわたって開催された「市民セナリヨ2006」長崎の宗教と文化、神と仏と人間とのシリーズ企画

なぜカトリック新聞か？ 編集長グリム神父からのメッセージ



聖霊は日本でも働いています。私たち日本のカトリック信者の召命は、このことを知り、感謝して、伝えていくことにあります。カトリック新聞

は、この召命に応えるために必要な助けとなりま

す。

聖霊は神の民を通して働きますが、私たちの小教区はどれも小さく、互いに知り合う機会に限られています。カトリック新聞は、北は稚内から南は石垣島までのキリスト者の生活を皆さんに紹介しています。

他のカトリック信者たちの活動を知ること、私たちの新しい祈り方や礼拝の方法、信仰の生き

方を学びます。カトリック新聞は、キリスト者の生活と宣教についての提案を、日本全国から、また全世界からお届けします。

私たちは世界の教会の一員です。私たちの兄弟姉妹は世界のあらゆる国で生活しています。カトリック新聞を通して、私たちは兄弟姉妹と出会い、その「世の光」としての生き方を知ることができ



いることはその逆です。私たちは子どもたちに教え、大人たちに祝福を与え、大人たちに祝福を与

や宣教についての、教皇や司教たち、教会指導者たちによる導きも紹介しています。

「イエスは大人たちに教え、子どもたちを祝福

えています。説教や聖書研究、小教区や教区、全国規模のプログラムなどは、大人の信仰を深める助けになっています。

しかし、私たち全員に、そうしたグループに参加する時間または機会があるわけではありません。

カトリック新聞は、大人のキリスト教信者の継続的な養成にも役立ちます。カトリック新聞は、意見欄や声の欄で、私たちの考え方や体験を分かち合える場になっています。

聖書と歴史、聖人たちの生涯などは、過去に神が私たちに与えてくださったことや神の民を通して行われたことを知

カトリック新聞を購入してみませんか？

購読のお申し込みは全国の教会にお配りしてある申し込みがき電話(03)5632-4432・ファックス(03)5632-7030で、またEメール(kodoku@cwjpn.com)、ホームページ(http://www.cwjpn.com)でも受け付けています。

●祈りの一日 ①12月3日(日) ②12月4日(月) ③1月14日(日) ④1月15日(月) 9時50分～15時半

●ともに祈る日々 ①12月7日(木) ②12月22日(金) ③12月30日(土) ④1月2日(火) 初日17時～最終日15時半

TEL 095(82)4577

▼大村市民クリスマス 12月17日(日) 16時半～18時半 シーハットおおむら・さくらホール

「祈りの一日」とともに祈る日々」は、実生活や問題を振り返り、静かに祈りたい、静かな時間を持ちたいと思う方ほどなたでも(信徒、一般の方も問いません)自由に参加できるものです。

いふどう園

▼イエズス会立山修道院 お知らせ

▼研修会「みことばの朗読奉仕のために」(全2回) ①2007年1月21日(日) ②2月18日(日) お告げのマリア修道会本部修道院 9時半～17時 ことばの典礼での奉仕について、典礼の原則と技術を学びます。

申込先・教区典礼委員会 研修会事務局(長崎カトリック神学院内) TEL 095(84)1096 FAX 095(84)0750

●香典返し お礼とご報告 長崎カトリック神学院 ●藤本千代子様(小ヶ倉) 故ペトロ藤本幸徳様 ●中島修二様(黒崎) 故ラウレンシオ 中島昭和様 右の方々から神学生養成のために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごいふを心からお祈り申し上げます。

○写真・御絵・思い出など 彫刻

○石碑

○納骨石工事

○納骨堂分譲

なが さき せき ちゅう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町6-17 岩永ビル2F

マイホームの美容と健康に！

(有) 山 川 塗 装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会理事

長崎県見物営繕工業協同組合理事

代表取締役 ペトロ 山 川 進

佐世保市原分町1715-5

TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

タンスの中身は入れたまま 責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)

24時間営業・年中無休 受付時間 7:00～22:00

水 浦 運 送

シモン 水 浦 幹 雄

長崎市上野町12-3

TEL(095)847-7151 844-1420

貨物保険有り

- ・一般引越
- ・小荷物
- ・荒ゴミ捨て
- ・遠距離
- ・学生引越
- ・ピアノ運搬

✧ NPO法人 浦上の丘福祉支援サービス ✧

- ・デイサービスセンター 浦上の丘
- ・移送支援サービス 浦上の丘
- ・ヘルプステーション えびら

地域の中で個人の人格を尊重し 安心して生活できるように それぞれにあった介護サービスを提供します

住所 長崎市江平2丁目10-24

電話 095-845-3294 担当 岩永まで

【各専門職募集中】

平成19年度 生徒募集

■中学入試

一次入試 1月6日(土)

二次入試 2月10日(土)

■高校入試

特進クラス選抜入試 1月16日(火)

一般一次入試 1月31日(水)

一般二次入試 3月16日(金)

長崎南山 中学校 高等学校

TEL 095-844-1572

URL http://www.n-nanzan.ed.jp/

純心中学校・純心女子高等学校

生徒募集

1次募集:12月23日(土) 2次募集:2月10日(土)

出願:12月23日(土)～18日(月) 出願:1月29日(月)～2月6日(火)

推薦選考:1月16日(火) 試験選考:1月31日(水)

出願:1月5日(金)～12日(金) 出願:1月17日(木)～1月24日(水)

お問い合わせ TEL:095-844-1175

牢屋の窄殉教祭



10月29日(日)さわやかな秋空のもと、五島市久賀島において、五島市牢屋の窄殉教祭が行われた。明治のはじめ、五島における最初の迫害により久賀島で殉教した42人の信徒の信仰をた

た42人の信徒の信仰をたためるため、毎年この時期に行われている。今年には下五島の各教会の信徒に加え上五島からの巡礼団約40人も来島し、久賀島デイスサービスセンターから牢屋の窄殉教地までのロザリオ行列と高見大司教司式の記念

ミサを共にささげた。大司教はこのミサで信仰の自由の尊さと世界平和について触れ、「殉教者たちの信仰を今の生活の中でどのように生きつらいいのか考え、神さまに知恵と勇気を願いましょう」と結んだ。

父神部岐口殉教祭

10月21日、ペトロ岐部神父殉教祭に合わせ、長崎から24人が大分巡礼に参加した。



た地「葛木クリスチャン殉教公園」で中村満神父カトリックセンター)司式によるミサがささげられ、その後、加賀山半左衛門バルタサルと息子デイエゴが殉教した「日出藩成敗所」を訪れた。

教は「東北における岐部神父」と題し講演。禁教の厳しい状況下での宣教活動について聞いた。列福祈願ミサでは大分教区宮原良治司教司式のもと約400人が、岐部神父、2人の殉教者の列福を祈った。

講演会 カリタスジャパンと世界



菊地 司 教

10月29日、長崎カトリック神学院体育館で教区福祉委員会主催、カリタスジャパン後援の社会福祉講演会が開かれ、



約700人(写真)が集まった。カトリック合唱団のミニコンサート、カリタスジャパンスタッフの紹介に続き、菊地司教(新湯教区)による講演が行われた。菊地司教は、中央アフリカ・ルワンダにおける支援活動や国際協力経験から、世界の現実(富の格差、貧困、飢餓、戦争、エイズなどの諸問題)と今後取り組むべき方向、また、現在カリタスジャパンが支援しているプロジェクトについて語った。世界でどのようなことが起こっているのか知ろうとする努力を続けること、相手の存在を認めることの大切さを認めることの大切さを

枯松神社慰霊祭

11月3日、長崎市下黒崎町の枯松神社境内で「第7回サン・ジワン様と外海クリスチャン慰霊 枯松神社祭」が行われ市内外から130人が参加し、黒崎教会主任峰神父と中町教会主任野下神父の共同司式による「感謝と慰霊ミサ」がささげられた。



を強調し、締めくくった。講演会に先立ち、福祉委員会委員長・下口勲師は今回の開催趣旨を述べたが、まさに各社会福祉団体が結束し、相互のかわりとときずな、連帯感を深め、教区がスローガにしていて福音宣教を社会福祉の分野で推進していくきつかけとなる集いとなった。

伝承の殉教地(浦上) ベアトスさまの墓前に祈る

今年の殉教祭(写真)は、原爆落下地点から北へ700m、山里小学校の下(橋口町・塔の尾)に、徳川3代将軍・家光のころ、ジワン、ジワンナ、ミギル一家3人が水責めの後、火刑に処され殉教した場所として言い伝えられているベアトスさま(ポルトガル語。聖人の位に上げられていないが、天国の至福の中にあると考えられている人)の墓がある。浦上の信徒は、この地を今も大切に守り、四季折々、人知れず誰かが花を添え、彼らの取り次ぎを願ひ祈っている。

和師、伴奏を松本俊穂氏が指導。「賛美する」ということは、クリストの祈り、波調に私たちが乗っかるということ」と語る平本師により、聖歌の選び方、歌い方、新しい聖歌の紹介などがあつた。また、松本氏は伴奏・前奏の弾き方、コードの弾き方などを、実際に同会シスターたちが楽譜にしたものをもとに、「何が正しいという弾き方はない。弾いて音を採り出し、聖歌の雰囲気を感じ、会衆に呼び掛けるようにしよう」と紹介した。

上五島教会群

巡礼



野崎島への渡航が危ぶまれたが、翌朝、波高の海を渡り、信徒が去って40年となる旧野首教会(写真左上)で野鹿に見守られ荘厳なミサを奉献した。米山教会では地元信徒の温かなもてなしを受け、15教会の巡礼を無事に終了した。



クルシリヨは1966年の開始以来、コースの進め方はほとんど変わらず、40年前の参加者ごと最近の参加者とは共通体験があると言える。大きな特徴として、パランカ(霊的花束)によって多くの支えに気づくということ。教会の聖徒の交わり―互いの、特に洗礼を受けた者同士の助け

クルシリヨ指導27年 三村 誠一 師

クルシリヨ スペイン語で「短いコース」。キリスト教錬成会。長崎教区は現在118回を終え、参加者総数は3,767人(司祭66、うち5人は後に司教叙階。助祭2、修道者2、修道女141、信徒男子1,652、女子1,904)。



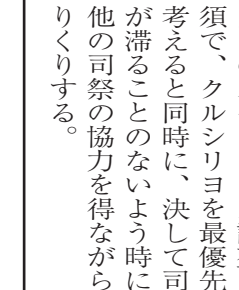
信徒の刷新と福音宣教に向けての発想の転換に挑戦している。

10月29日(日)お告げのマリア修道会本部修道院(小江原)において、教区典礼委員会聖歌部門研修会が参加者70余人を集め、熱心に行われた。この研修会は同修道会が年2回開いているカテキスタ研修会の中で行われたもので、今年5月に続き2回目。前回は好評で、今回は再度参加した人もいた。聖歌を平本義

10月19日、カトリックセンターホールにおいて、高見大司教(写真)を講師に公開聖書講座が開催された。テーマは「新約聖書の中の詩編」で、大司教自身が今年のプログラムに沿って選んだもの。参加者は聖書講

秋の公開聖書講座開催

たユダヤ民族に詩編を引用して、効果的に新しい教えを伝えられたことなどを説明し詩編。これを



参加者一同に浸透し、より深い兄弟愛の交わりの場へと派遣された。

参加者は次の通り。木鉢2、小ヶ倉2、深堀2、香焼1、時津2、植松2、相浦3、浅子1、横浦1、大崎2、平戸2



訂正 11月号3面の「人・マリ」文庫代表野崎博子さんの記事で、「現在まで完成している図書の数は220タイトル」とあるのは2200タイトルの誤りです。お詫びいたします。



第118回クルシリヨは11月2日の夕方から5日まで、イエズス会立山修道院で指導司祭三村誠一師のもと11教会20人(男性9、女性11)が参

クルシリヨ 兄弟愛の交わりの中で

し、そのこまやかな愛が

参加者一同に浸透し、より深い兄弟愛の交わりの場へと派遣された。

参加者は次の通り。木鉢2、小ヶ倉2、深堀2、香焼1、時津2、植松2、相浦3、浅子1、横浦1、大崎2、平戸2

訂正 11月号3面の「人・マリ」文庫代表野崎博子さんの記事で、「現在まで完成している図書の数は220タイトル」とあるのは2200タイトルの誤りです。お詫びいたします。



訂正 11月号3面の「人・マリ」文庫代表野崎博子さんの記事で、「現在まで完成している図書の数は220タイトル」とあるのは2200タイトルの誤りです。お詫びいたします。

訂正 11月号3面の「人・マリ」文庫代表野崎博子さんの記事で、「現在まで完成している図書の数は220タイトル」とあるのは2200タイトルの誤りです。お詫びいたします。

訂正 11月号3面の「人・マリ」文庫代表野崎博子さんの記事で、「現在まで完成している図書の数は220タイトル」とあるのは2200タイトルの誤りです。お詫びいたします。

集会 3000回を記録

レジオマリエ(浦上教会) 病人訪問など活動

3000回の集会を記録
の集会を記録
。11月7
日浦上教会の
レジオマリエ
「天主と人類
の母」(指導
司祭平野 勇
師、中野姫久
美会長)は1948年6
月の初集会以来、58年半
毎週集会を開き、折りと
活動にまい進、現在会員
14人、賛助会員6人がい
る。

当日の集会、冷え込み
の中、全員出席(写真)。
開会の祈り、ロザリオ、
霊的読書、活動報告、マ
リアの歌(マニフィカト)
に続いて会長訓話、次の
仕事などを話し合う。
レジオマリエの活動は



天正遣欧使節団が聴いた
音色「浦上教会」で甦る

音色「天正遣
欧使節団が聴
いた音楽」
(KTNテレ
ビ長崎主催)
10月29日、浦
上教会であり
聴衆は中世・
ルネサンス音
楽を堪能し
た。演奏を前
に26聖人記念
館の元館長結城了悟神父
の講演(写真)があった。
1582年(天正10)

会発足からの会員、大
山政輝さんは「1日の仕
事を終え集いに駆けつけ
会員と交わり、マリアの
精神を植えつけ、助け合っ
て前進する。私が52年余
の会員を続けたのも兄弟
愛の交わりと信仰があっ
たからです」と3000
回の集会を振り返る。



のうちの3人は武将の子
で礼儀正しく、大人より
ヨーロッパでの食生活、習
慣など新しい環境の変化
に順応できるからと解説
した。続いて遣欧使節が
果たした役割、帰国後の
伊東マンショ、千々石ミゲ
ル、原マルチノ、中浦ジュ
リアンの活動についても
分かりやすく説いた。
講演後は、リユート、
ビオラ、リコーダー、ク
ルムホルンなど古楽アン
サンブルを満喫した。母
上にあてた千々石ミゲル

の日記のナレーションが
流れる中、「母なるマリ
ア」「ダビデ王の悲しみ」
「聖母マリア賛歌」「ゲ
レゴリオ聖歌」など聖堂
に響き天正の音色を甦ら
せた。
演奏はダンスリールネ
サンス合奏団。1972
年に結成され、日本各地
で演奏活動している。

奥浦慈恵院
移転新築



町から平蔵町に移転新
築、鉄筋2階建て(一
部3階)延べ床面積は
約1648平方メートル。総
事業費約3億5千万円
は国、県、市などの交
付金と助成金のほか「お
告げのマリア修道会」
などの寄付。旧施設は
1968年建設。施設下
のがけ崩れの危険に加
え、建物の老朽化がめだ
ち新築移転に踏み切る。
入所児童定員35人。平成
19年度から40人予定。濱
村みち子施設長。

エテルナ・ワコー(株)
代表取締役 ミカエル 溝口 美義
〒858-0926 佐世保市大湊町586
TEL(0956)47-4380

主の平安
株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭
五島市上大津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551
24時間営業 FAX (0959) 74-5552

ルカによる福音2章11
節
「今日ダビデの町で、
あなたがたのために救
い主がお生まれになっ
た。この方こそ主メシ
アである。」

そして命について考え
るときでもあります。
最近、悲しいこと、つ
らいことに心が押しつぶ
されて自分から命をすて
てしまふ人たちがたくさ
んいます。とっても悲し
いことです。

文部科学省の平成18年
度教育改革推進モデル校
に指定を受けた聖マリア
学院小中学校(岩永眞智
子校長)は10月23日「ス
ペシャル・イングリッ
シュ・デー」を設定、佐
世保市の米軍基地内にあ
るアメリカンスクールの
児童・生徒、先生、保護
者など125人をお招き両
校の交流(写真)を深め
た。

杯第58回
全日本中
学校英語
弁論大会
の長崎県
予選は、
10月14日
長崎市内
で開か
れ、長崎
市精道中3
年の本多
美佳子さん(15)が優勝した。
本多さんは、あいさつ
の大切さを5分間の制限
時間でまとめ発表した。
決勝予選大会は11月
23、24日読売新聞東京本
社で行われるが、本多さ
んの他2、3位入賞者の
3人が県代表として出場
する。

みことばにふれて

本田靖彦神父



カット 馬込教会・本村静香

いことです。私は子供の
皆さんよりも少しだけ長
く生きているので、次の
ことを伝えておきたいと
思います。私たちが生き
ているかぎり、つらいこ
とや悲しいことは絶対に
ありません。どうして?

の周りをよく見てくださ
い。あなたを心から愛し
ている人がいると思いま
す。そして誰よりも私た
ちのお父さんである神さ
まが私たちを心から愛し
てくださっています。私
たちは愛されるために、

そして愛するために生ま
れてきました。そのこと
をしつかりと心にとめて
おきましょう。
クリスマスは私たちに
与えられているこの命に
感謝するときでもありま
す。私たちがお互いにこ
の命を支え合っている人
のように、泣いている人が
いたら助けてあげられる
ような、そんなきれいな
心で生活できますよう
に、この待降節の間よく
お祈りをして、イエスさ
まをおむかえする準備を
していきましょう。

英語弁論大会県予選
精道中3年本多さん優勝

杯第58回
全日本中
学校英語
弁論大会
の長崎県
予選は、
10月14日
長崎市内
で開か
れ、長崎
市精道中3
年の本多
美佳子さん(15)が優勝した。
本多さんは、あいさつ
の大切さを5分間の制限
時間でまとめ発表した。
決勝予選大会は11月
23、24日読売新聞東京本
社で行われるが、本多さ
んの他2、3位入賞者の
3人が県代表として出場
する。

吉田孝穂さん
産業功労で
県民表彰

11月23日長崎県議会議
場で「県民表彰式」が行
われ、長崎市長宮町、吉
田孝穂さん(70、滑石教
会所属)が産業(商工)功
労者として表彰された。
野母商船株式会社顧問。
長崎国際観光コンベ
ンション協会、長崎市
ベロン協会、長崎ハタ
揚げ振興協会などの理事



を務め長崎観光龍踊り会
副会長、長崎遊泳協会副
理事などの役職を持つ。

永田貴子のペンネーム
で内山田洋とクールファ
イブ/前川清のデビュー
曲「長崎は今日も雨だつ
た」「西海ブルース」な
どの作詞家として多くの
歌謡曲を作詞。
教会関係での活躍もめ
だち、昨年来崎したイス
ラエル、パレスチナの子
供たちの滞在中、ボラン
ティア奉仕を務める。

小西雪子さん
「長崎さるく博'06」
川柳など3賞受賞

「長崎さるく博'06」は
今年4月1日開幕、10月
29日閉幕した。「さるく
博'06推進委員会」は、あ
なたの思い出を記念の作
品にと短歌、俳句、川柳
写真など、さるく博参加
者に出品を呼び掛けてい
たが「川柳部門」で長崎
市相生町の小西雪子さん
(大浦教会所属)が大賞
に輝いた。



長崎が元気もらった
さるく博

小西さんはご主人伸一
さんの長崎市ボランティア
観光ガイドのサポーター
役として68回参加、夫婦で
健闘したとして「さるく博
も頂く。また、さるく博
フィナーレ10コマラン
60歳代の部で優勝と3つ
の賞を手にした。小西さ
んは「体験を通して初め
て作った川柳が大賞に選
ばれラッキーでした」と
喜びを語っていた。

琴海メモリアルパーク
琴海ニュータウン側
社団法人 西部長崎共同墓地公園
事務局 ミカエル 大田 力
西彼杵郡時津町子々川郷172番地
TEL FAX 095-884-1817

教会パンコ・祭壇・朗読台・家庭祭壇
浜口木工所
ヨハネ 浜口 知博
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎(0956) 23-1867

御像のぬり替え・補修
家庭内や外庭に色がはげたり、傷ついたりした
御像がありましたら御連絡下さい。
ヨゼフ 山崎 満
長崎市下黒崎町3433-2
☎ 0959-25-1117
携帯 090-2714-3192

12月3日(日)からの
特設期間の日曜日は
営業します!
【12月の定休日】25日、26日【年末休業日】29日~1月4日
キリスト教書籍・用品専門店
サンパウロ 長崎宣教センター
長崎市上野町2-6(カトリックセンターから徒歩1分)
TEL 095-841-8033 FAX 095-841-8034